

2025.2.8 外部講師研修会参加

道南回復期リハビリテーション病棟協議会

名前：大淵 裕

【感想】

『回復期リハビリテーション病棟で最も重要なのは看護と介護の行う自立支援のケアである。』

昨日は道南回復期リハビリテーション病棟協議会の研修会に参加しました。回復期看護の在り方や組織づくりについてのヒントも得ることが出来ました。以下備忘録的に報告します。

テーマ：『回復期リハビリテーション病棟看護の専門性～わくわく働くために～』

講師：NTT 東日本伊豆病院 一宮禎美さん

今回はオンラインで回復期リハビリテーション看護についてお話ししていただきました。

冒頭は故石川誠先生の言葉から始まりました。

『回復期リハビリテーション病棟で最も重要なのは看護と介護の行う自立支援のケアである。』

『単にお世話をしているようなケアを漫然と行うか、自立支援のケアを行うか。しっかりやる病棟とそうでない病棟とでは数か月後の患者さんたちの結果に雲泥の差が生じる。』

その後は回復期リハビリテーション看護の魅力＝リハビリで出来る能力をいかに病棟で汎化するか。そのためには看護・介護スタッフとセラピストが実際の場面で情報交換しながら実施する。そうすることで『人としての尊厳』や『主体性の回復』を支援する。

また、組織の作り方＝いらぬ業務を書き出して、慣習を見直す。SWOT 分析を通して多職種協働で回復期病棟の理念を作る。

1時間という短い時間でしたが、すぐにでも取り組めそうなヒントがたくさん散りばめられた講演でした。一宮さんありがとうございました！！



回復期リハビリテーション病棟看護の専門性
～わくわく働くために～

回復期リハビリテーション病棟協議会 看護介護委員会
NTT東日本伊豆病院 一宮禎美